

FAX 送信先 : 0942-36-1961

宗茂式気功参加申込書

開催日時 : 2017年5月12日(金) PM 15:00~18:00

2017年5月13日(土) AM 9:00~12:00

開催場所 : ORT 生命科学研究所 (下津浦内科医院 3F) 福岡県久留米市東町 496

[TEL:0942-36-0630](tel:0942-36-0630) FAX:0942-36-0610 e-mail : seimei@bdort.net



◎ **参加希望日 2017年5月12日(金)・5月13日(土)**

(※参加希望日に○印をつけて下さい。)

| 参加者氏名 | 住 所 | 電話番号 | FAX 番号 | e-mail address |
|-------|-----|------|--------|----------------|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

元マラソン選手 宗茂氏が開設する気功健康塾のツボ 69歳記者の持病をズバリ透視

週間実話 2010年3月25日号

宗茂・猛兄弟と言えば、日本で最も有名な兄弟マラソン選手だ。日本の男子マラソン界をリードし、宗兄弟と瀬古利彦の対決は、マラソンファンを熱狂させたものである。その双子の兄・宗茂さん(57)が、旭化成陸上部監督を辞任した後、昨年6月から宮崎県延岡市内に『気功健康塾』を開いた。開設から9カ月。1日で20人ほど気功の施術を行う日もあり、健康の悩み解消に努める“センセイ”として徐々に宗さんの名が知られるようになった。「正直に言いますと、最初は皆さん驚かれるんですよ。選手として指導者としてマラソンに深く関わってきた私が、『気功』をやっていると、何か馴染まないというか、奇異に感じられるようですね」宗さんはこう言って、馴染み深いあの笑顔と白い歯をのぞかせながら、広さ30坪ほどの塾内へ招いてくれた。九州はもとより広島、大阪、東京などから腰痛や肩こり、冷え性やムチウチ、リウマチ、果ては内臓疾患などに悩む人が宗さんの元を訪れるという。しかも、女性が80%に上る。「症状や年齢によって改善の程度はさまざまですが、女性が多いのはホルモンの関係もあるんでしょうね。もちろん、私の“気功”によって、時間の掛かる人もいれば、劇的に症状が消えた方が何人もおられます。『痛みがなくなった。症状が軽くなった』と言って、感謝の言葉を頂くのがとっても嬉しい。それだけでいいんです」(宗さん)

別府大分毎日マラソン、東京国際マラソン、そして北京マラソンなどで6度の優勝。数々の栄光に輝いた世界的ランナーの宗さんが「どうして気功を？」と聞いてみた。「この塾を開いたのは約半年前ですが、私が気功という“新世界”に出会ったのは、実は15、16年前。現役ランナーから監督になって間もない頃ですから結構古いんです」宗さんと気功の出会いのきっかけは1通の手紙だった。当時、宗さんのもとには毎日のように全国から郵便物が届く。ファンからの叱咤激励、用具用品やサプリメントの宣伝。また「選手のケガを治します」といったマッサージ師、整体師などからの売り込み…。たいていはマネジャーやスタッフにその手の手紙の処理を任せ、自ら中身を確認することはなかった。だが、ある日、陸上部のポストに詰まった手紙を取り出した。別に理由があったわけでもない。その中の1通を取り出し、読んだところ胸に響くものが。ある気功師からの手紙であった。「詳細は忘れましたが、マラソンは故障に悩む人が多いと聞く。ケガに悩む選手の問題解決に気功の力を利用したらどうか。そんな内容でした。それで、手紙にあった東京の先生の元を尋ねたわけです。運命的というんですか。初めて知った気功という施術に衝撃を受けて以来、胡散臭く思っていたものが吹き飛びました」(宗さん) 現役時代、宗さんも何度もケガや故障と向き合ってきた。監督になっても選手たちのそうした苦痛や悩みに直面。「どうにかしてあげたい。何か出来ることは」と藁にもすがる思いだった。より上を目指そうとするアスリートたちは、自らを極限状態まで追い込んでいくため、ケガも多いし、故障が耐えない。そんな時、東京の気功師からの手紙――。その後の出来事を含め、不思議な運命と宗さんは言う。「1つは偶然、私が手紙を取ったこと。気功師のもとを訪れたこと。いままで気功なんてまったく興味がなかった私が今、気功の世界に魅せられていること。これら一連のことに必然性を感じるんです」旭化成の陸上部監督を弟に譲ったのが'05年。同陸上部の顧問を務める一方で九州保健福祉大学(延岡市)の客員

教授として東洋医学を勉強。そして、久留米市の下津浦内科の先生などと協力。症例の整理、分析…気功のメカニズムの解明に役立てようと、勉強しているという。ここからは気功に対する「宗茂論」だ。まず、気功というのは決して「オレが治してやる」といった大上段に構えた施術ではない。あくまで、その人の持っている自然治癒力の回路を開く手助けをして、血行を良くしながら治癒力を高めていくのだ。

実際に記者も施術を受けてみた。宗さんは両手の手のひらを広げ、私の体に近づけ、指先から「気」を送り続けるが、手をかざすだけで体には触れない。立ったまま 20～30分すると、何と体がゆっくりと後ろに左右に動き出した。もちろん、夢想の世界に入っている訳ではないので、自分の意志で止めようと思えば簡単に動きを止められる。

「それは、強制的に何かの力で動いている訳じゃないのです。体が自然に動き出すわけですから」(宗さん)

手のひらはなおも頭、首、そして腰に近づきゆっくり動いて行く。耳元で宗さんの気を注入する僅かな息づかいを感じ、癒しの曲を聴きながら 40分ほどで施術を終えた。宗さんがズバリと言った。「あなたは腰が緊張しています。それも右側が悪いですね。あと胸というか、肺の周辺に軽い症状が出ています。お疲れじゃないですか」施術前に「どこがおかしい。腰が凝ってます」などと告知した覚えはない。それが見事に透視された。特に「胸の辺りに異常が」と言われたのにはドッキリ。自覚症状に心当たりがあったからだ。腰も軽くなっていた。これは不思議だが、事実。お世辞でも何でも無いことを断言したい。

ここを訪れる“患者”も様々な症状を抱えながやってくる。その一人一人に手をかざし、“気のパワー”を送りながら治癒していく。弟・猛監督の旭化成のクラブハウスへ出向いたり、また来塾した選手のサポートも続けている。

最近、宮崎市内や福岡などに講演で出かける機会も増えている。「マラソンと気功について」の話になるというが、気功については聴衆にスンナリと受け入れてもらえないこともある。そんな時、場内から壇上に上がってもらい、衆目の前で気を入れる実演で、納得して貰う事もあるそうだ。

「自分はまだまだ未熟。ただ肉体的に弱い人を、普通の生活が出来るように手助けする仕事として誇りに思います。心身に問題を抱え、悩んでいる方にも踏み込んだ治癒法を研究したい。気功が本物かどうか、あるいはそれがどう作用したかは二の次。私の元を訪れたことで症状が軽くなり、喜んでもらえるなら何よりなんです」(宗さん)

最後に「気を入れたので帰りは眠くなるかもしれませよ」と宗さんは笑顔で見送ってくれた。